

Management Information

連載 会計実務概論「病医院会計のすべて」

第 2 部 病院会計制度概論

第 12 章 財務諸表の分析 財務諸表の見方

12-2 財務諸表分析の観点

12-2-5 各計算書と分析指標とのかかわり (承前)

キャッシュ・フロー計算書関係

(1) 着眼点

- ①年間の資金収支はプラスか。
- ②事業活動によるキャッシュ・フローは、投資に必要な資金をまかなえる水準であるか。
- ③事業活動によるキャッシュ・フローは増加しているか。

(2) 分析方法

- ①間接法にもとづくキャッシュ・フロー計算書を作成する。
- ②事業活動によるキャッシュ・フロー、事業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フローがプラスであるか。
- ③②の原因について追跡する。

(3) 注意点

- ①損益概念を重視しながらも、資金収支に関する概念を浸透させる。
- ②事業活動によるキャッシュ・フロー、事業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フローはプラスであることが前提となる。事業活動によるキャッシュ・フローのマイナスは投資資金の不足につながり、事業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フローのマイナスは借入金の返済に支障が出る可能性がある。
- ③院外処方に切り替える場合には、運転資本の増加が予想される。その是非と準備を検討する。

<続く>

(井出健二郎著「病医院会計のすべて」日本医療企画より)

診療報酬改定2026 その7 改定率決定

昨年末、2026年度診療報酬改定の改定率が、「プラス3.09%」に決定しました。久しぶりの大幅なプラス改定になったとちょっとした話題にもなりました。しかし、その内訳をみると、手放しには喜ぶのは少し早いようです。以下、厚生労働省中医協より抜粋

〔診療報酬改定〕について

前文より

・施設類型ごとの費用構造や経営実態を踏まえて経営の改善や従事者の処遇改善につながる的確な対応を行う。あわせて、現役世代の保険料負担の抑制のため、後発医薬品への置換えの進展を踏まえた対応、適切な在宅医療の推進のための対応、調剤報酬の適正化、長期処方・リフィル処方の取組強化などを行う

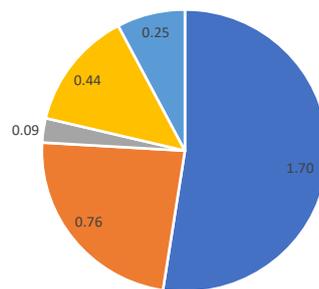
改定率

・+3.09% ((令和8年度及び令和9年度の2年度平均。令和8年度(+2.41%(国費2,348億円程度(令和8年度予算額。以下同じ。))、令和9年度(+3.77%)(注)
令和8年6月施行

内訳

・賃上げ分：+1.70%、物価対応分：+0.76%、食費・光熱費：+0.09%、経営環境悪化緊急対応分：+0.44%、本体改定：+0.25%

改定内訳



■賃上げ分 ■物価対応分 ■食費・光熱水費 ■経営環境悪化緊急対応分 ■本体改定

グラフでも分かるように、プラス改定で収益がアップする半分以上は賃上げに回ります。さらに改定自体は令和8年6月からです。そして、令和8年からプラス3.09%になるわけではありません。すぐに医療機関の経営状況が良くなるのではないので、注意が必要です。